業務部速報

No. 110
発行 26. 1. 14
JR東労組 業務部

申1号 第44回定期大会発言等に基づく申し入れ
1月13日 第1回団体交渉を行う！ ①

1．新幹線の事故・事象および命を脅かす事故・事象が繰り返し発生している現実に対する会社の認識を明らかにすること。また、発生主義ではなく、予防安全の観点で対策すること。

●組合 ■会社

●2023年12月の新幹線統括本部長からの『「新幹線を止めない、遅らせない」体制で挑みましょう』という掲示以降、新幹線に関する事象が多発している。
●未だに、新幹線を利用する方からの不信感は拭えてない。

■言葉の捉え方はいろいろあるが、「危ないと思ったら列車を止める！」というグループ全体の行動規範に変わりはない。事象の状況や背景は異なる。一つ一つ原因究明をして再発防止をしていく。
■信頼を得て利用してもらうことが大切である。安全と安定の両輪の品質を向上させていくが、**どちらを優先するのかと言えば、もちろん安全だ。**

●繰り返し発生している事象が多い。職場の年齢も若返っているし、長くいる人も少ない。危険予知ができないから同種事象がなくならないのではないか。予防安全のためにも**系統のプロは必要だ。**
●新年社長あいさつで、正当化バイアスで真の対策になっていない、三現主義の視点や実践を疎かにしている等のマネジメント側への課題が述べられているが、どう認識しているのか。組織事故の観点を持つべきだ！

■安全のプロを中心に安全に対する教育をしている。各系統のノウハウやプロづくりは必要であり、専門知識を深められるようにしていく。スペシャリストとゼネラリストの両方が必要。専門的な技術を深める人と広める人が必要だ。
■マネジメントの課題として、三現主義を行い徹底していく。命にかかわる事象であり、本質の理解を進めていく。第一線も状況を把握すれば防げることがある。本質理解について、もっとしていく必要があると認識している。

・この間安全について議論して締結してきた「労働協約」を遵守することを確認！
・“危ないと思ったら、列車を止める！”ことをこれからも実践していくことを確認！
・本質に迫り、原因究明を行っていくことを確認！

3．「融合と連携」が深度化し、組合員・社員が担う業務が増加している職場現実であることから、安全で安心して業務を行えるようにするため、教育・訓練は確実に実施すること。

●組合 ■会社

●融合と連携が進み、チームワークの重要性や技術継承の重要性などを議論して確認してきた。しかし営業職場では、ステーションバイブルが活用されていない現実がある。
●複数の駅や乗務職場で業務するため、社員間の関係が希薄である。

■社員一人ひとりの経験や知識を踏まえて教育をしていく。ステーションバイブルを活用しフォローしていく。
■顔を合わせたことのない社員同士が仕事をすることがあるため、所内報や出番者一覧などを活用していく。

②に続く